

第15回支部通常総会を開催しました

(一社)日本建設機械施工協会中国支部は、第15回通常総会を令和8年6月10日(水)にホテルメルパルク広島において開催しました。本部より岩見業務執行理事出席のもと、来賓として中国地方整備局の幹部の方に出席いただき、主要議事と感謝状の贈呈・技術者表彰に加え中国地方整備局企画部長による講話と広島電鉄(株)電車事業本部電車技術部長による記念講演会を行い、総会終了後には懇親会を開催しました。

【鷲田副支部長開会の挨拶】

一般社団法人日本建設機械施工協会中国支部の第15回通常総会を開催するにあたり、河合支部長に代わりまして、ご挨拶を申し上げます。

建設業界全体を取り巻く環境は、近年ますます複雑化・高度化しています。国土交通省が進める「i-Construction」や「建設DX」の取り組みにより、建設現場にはICT建機、3次元測量、クラウド型施工管理、遠隔操作といった最先端技術が次々と導入されています。これらの技術の定着と活用を進めるには、現場の施工業者の創意工夫と実行力だけでなく、建設機械メーカーの技術開発力、ソフトウェアメーカーのシステム提供力、そしてレンタル業者の柔軟な供給・保守体制があってこそ成り立つものです。

とりわけ、施工に携わっておられる皆様には、日々変化する現場環境の中で、厳しい工程管理、安全確保、品質維持という重責を担っておられます。多くの制約や課題を抱える中でも、ICTの活用、技能者の育成、新たな施工技術の導入など、挑戦を続けておられる皆様に、改めて深く敬意を表するとともに、このような産業横断的な連携と支え合いこそが、地域のインフラ整備や災害復旧といった社会的使命を果たす上で、非常に重要であると感じています。

当支部としてもICT施工技術の普及や講習・研修活動を通じて、その推進に努めてまいりました。現場のデジタル化・効率化は、生産性向上だけでなく、働き方改革の観点からも非常に重要であり、引き続き重点的に取り組んでまいります。

業界全体としての課題も多く存在します。なかでも、中東情勢の変化による燃料油・石油製品や重要物資の高騰により資材の安定的な供給確保が困難な状況となっており、現場の採算性や工事の遅延等による国民生活にも大きな影響が生じてきています。社会情勢にも配慮したコスト管理の厳格化や効率的でより効果のある施工を目指すなど、施工業者に求められる対応も一段と高度化していく必要があります。

また全国的な問題となっているインフラの老朽化にも、真正面から取り組まねばなりません。戦後の高度成長期に整備された橋梁やトンネル、上下水道といった社会資本が、次々と更新・補修の時期を迎える中で、効率的かつ安全な施工を実現するためには、施工技術の一層の高度化と、現場の省力化が鍵を握っています。



開会の挨拶(鷲田副支部長)

近年、豪雨・地震などによる被害が頻発していますが、そのたびに我々建設業界が果たすべき役割の重要性を再認識しています。昨年も各地で発生した大雨被害に対し、当支部会員の皆様によって迅速な復旧活動を行っていただきました。こうした対応力の強化と平時からの備えは、今後ますます重要になってまいります。

そしてもう一つの重要なテーマが、人材の確保と育成です。建設業界全体で技術者・技能者の高齢化が進む中で、若手人材の確保と技術の継承は喫緊の課題です。これを解決するためにも、DXやICTを活用した「魅力ある現場づくり」が鍵となります。機械・IT・施工の専門分野が連携し、若者がやりがいを感じられる業界へと進化していくことが期待されています。

このように、我々を取り巻く環境は多様な課題に満ちています。しかしながらこうした時代だからこそ、協会としての連携・情報共有の価値が高まっていると感じています。当支部は引き続き、技術講習や現場見学会、意見交換の場などを通じて、会員の皆様の活動を支援してまいります。

最後になりますが、皆様の今後益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げるとともに、引き続きのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

【岩見業務執行理事（本部）の挨拶】 抜粋

当協会の発足は、昭和24年にまでさかのぼりますが、設立当初は荒廃した戦後の国土覆工を早期に行うため建設工事を機械化するという目標を掲げ活動してきました。そのため建設機械メーカーをはじめ建設業、機械整備業、建設機械レンタル業、測量関連企業、建設コンサルタント、商社、研究機関など多くの関係者にご尽力いただきました。

建設事業は昨今ではさらに建設工事のデジタル技術活用による変革が急速に進んでいます。特に少子高齢化、担い手不足に対応した「人が少なくても施工できる技術」としての省人化技術について、施工のオートメーション化も含め重要視されているところです。

また先般も東北でマグニチュード7クラスの地震がありました。災害時にまず活躍いただくのがその場にいる建設会社・建設機械です。当協会では昨年災害対応をサポートするため、国土交通省、建設機械メーカーとともに協定を結んで災害時の建設機械の位置情報の提供に関する協力を始めたところです。さらに建設現場におけるカーボンニュートラルの取組も喫緊の課題であり、当協会では施工段階でのCO₂削減を目指して「建設現場のCO₂可視化推進会議」を設置し、CO₂発生量を定量的に把握する手法とルールを確立し、国土交通省でもモデル事業の試算に使われているところです。

多くの会員会社ではDX・GXの取り組みをさらに業界のイメージアップにつなげたいといった動きもあり、当協会としても支援していきたいと考えています。

支部において講習会を通じて最新の技術を習得できるよう会員のご協力もいただきながら取組んでいるところであり、地域に即した各種の委員会活動の推進など皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

【運営委員会（役員互選等）】

河合支部長が海外出張中であり、引き続きの海外勤務となることにより、新たに支部長を選任する必要があります。運営委員会において広島大学の半井健一郎教授が新支部長に選任されご就任いただきました。



本部挨拶（岩見業務執行理事）



半井新支部長による議事進行

【感謝状贈呈、優良技術者表彰】

「一般社団法人日本建設機械施工協会感謝状贈呈」では、支部団体会員として会員期間70年の日立建機日本（株）中国・四国支社をはじめ、会員期間毎に全3社の支部団体会員に、また個人に対する表彰では、アイサワ工業（株）広島支店長 空本典也氏に協会本部の岩見業務執行理事からそれぞれ感謝状が贈呈されました。

続く「建設の機械化施工優良技術者表彰」では、支部会員各社から推薦された運転・整備部門3名、管理部門1名、技術開発部門1名の合計5名に半井支部長から優良技術者の表彰状と記念品贈呈され、お祝いの言葉をいただきました。

「支部団体会員・個人に対する感謝状」贈呈



※敬称略

表彰(団体会員・個人)	企業名、個人名（役職・氏名）
会員期間60年	日立建機日本（株）中国・四国支社
会員期間50年	沼田建設（株）
会員期間40年	塩田工業（株）
個人に対する表彰	アイサワ工業（株）広島支店長 空本典也

「建設の機械化施工優良技術者表彰」

～半井支部長からお祝いの言葉をいただく受賞者～



※敬称略

部 門	個人名：企業名
運転・整備部門	小村竜司：まるなか建設（株）
	藤井朋幸：瑞穂工業（株）
	松川誠吾：（株）エヌ・ピー・ケイ中国
管理部門	佐々木誠：五洋建設（株）中国支店
技術開発部門	安部 寛：（株）都間土建

【講話・記念講演会】

総会後に行われた講話では、中国地方整備局企画部長の吉岡大藏氏から「中国地方整備局の最近の話題」と題し、中国地方の現状と課題として近年の自然災害の状況やインフラ老朽化の進展などについて説明いただくとともに、令和8年度の主要事業や国土強靱化への取組、「地域の守り手」として重要な役割を担う建設産業の担い手確保や省人化技術への取組等について紹介いただきました。

続く記念講演会では、広島電鉄（株）電車技術部長の八木秀彰氏から「広島を走り続けた都市交通の軌跡とこれから」と題し、令和7年8月に開業した広島駅前ルートやその後開業した循環ルートの整備について、昭和20年8月の原爆投下から3日後には路面電車が運行を再開し市民生活の足として復興を支えるなどした広島都市圏に果たしてきた役割などについて説明いただきました。

今後の広島都市圏における都市交通の在り方や魅力ある街の賑わい・交流創出として、交通結節点である新しい広島駅を拠点とする役割や期待について、写真や動画などで分かり易く紹介いただきました。



講話：中国地方整備局 吉岡企画部長



記念講演会：広島電鉄（株）八木電車技術部長

「令和8年度 建設DX講習会」を開催しました

（一社）日本建設機械施工協会中国支部では、5月22日（金）に広島YMCA国際文化ホールにおいて「令和8年度 建設DX講習会」を開催しました。

■講習会の開催概要

建設DX講習会は、建設現場の生産性向上や業務、組織、プロセス、文化・風土や働き方の変革を目的として、国土交通省はもとより地方公共団体でも取組みが促進されている「インフラDX」、「i-Construction」などに関し、その新たな施策となる「ICT施工 StageⅡ」や「i-Construction 2.0」等の建設現場における実施状況などについて、最新の情報を年度当初に提供する講習会として開催したものです。

令和3年度から令和6年度まではコロナ禍の影響を受け、Web形式によるビデオ講習会として実施していましたが、昨年からは臨場形式での講習会に戻し開催しています。

講習内容は、聴講される皆様の満足度を重視した技術講習会の内容とするため、従前実施した講習会等のアンケートにおける聴講者の意見のほか、国土交通省が推進している「ICT施工 StageⅡ」や「i-Construction 2.0」等の施策について実施事例などを取り入れた内容とし、臨場講習会として聴講しやすい講習会形式とするため、下記の通り計5課題、延べ4時間の講習プログラムとして実施しました。

今回の講習会には126名にご参加いただきました。また今後の講習会の参考とするため、聴講者の皆様から講習内容に関する参考度や内容等に関するご意見などを伺っており、アンケート回答者の大多数から「大変参考になった」「参考になった」との回答をいただいています。今後もこれらの意見を参考に、充実した講習会を実施できればと考えています。次ページに講義の概要と聴講者アンケートを掲載しています。

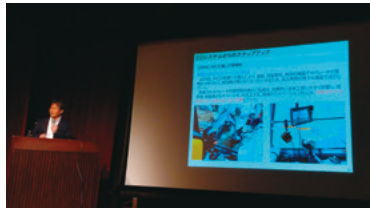
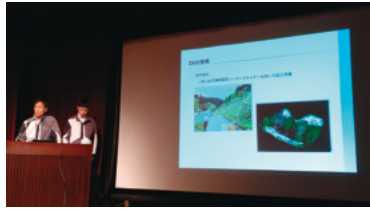


建設DX講習会講義状況（広島YMCA国際文化ホール）

■当日の講習会のプログラム

一般社団法人 日本建設機械施工協会 中国支部				
令和8年度 建設DX講習会プログラム				
【日時】 令和8年5月22日（金）13時～17時20分			【場所】 広島YMCA国際文化ホール	
全国土木施工管理技士会連合会CPDS認定講習				※敬称略
	講義時間	演 題	講 師	
0.	10分	開会挨拶 ほか	（一社）日本建設機械施工協会 中国支部 開発普及部会	西岡 寿雄
1.	60分	i-Construction 2.0について	国土交通省 参事官（イノベーション担当） グループ 施工企画室 室長	増 竜郎
2.	60分	中国地方整備局のインフラDXの取組について	国土交通省 中国地方整備局 企画部 建設情報・施工高度化技術調整官	岸本 孝文
3.	60分	ICT活用工事の動向と活用事例について	（一社）日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 研究第3部 次長	藤島 崇
4.	30分	道路改良工事におけるDX技術活用事例の紹介	（株）加藤組 土木課 土木課主任	中篠迫 亮 今戸 陽
5.	30分	橋梁点検業務におけるDX技術（点検支援技術）活用事例の紹介	国土交通省 中国地方整備局 道路部 道路構造保全官	山本 順也

■講習会の講義内容（概要）

<u>○i-Construction 2.0について</u> ・建設産業の現状、政府予算 ・DX、i-Construction 2.0 i-Construction 2.0 大規模災害時の建設機械の位置情報の共有に関する取組 ・カーボンニュートラルの取組 ・技術開発・新技術活用の推進	 国土交通省 施工企画室 増室長
<u>○中国地方整備局のインフラDXの取組について</u> ・建設現場を取り巻く背景・課題 等 中国地方の建設業従事者の推移 社会資本の老朽化 国土・地域づくりの担い手として、持続可能な建設産業の構築 ・中国地方整備局の取り組み 「中国地整インフラDX推進計画2026」を策定 ・i-Constructionに関する補助金・税制、融資制度	 中国地整 企画部 岸本DX官
<u>○ICT活用工事の動向と活用事例について</u> ・2026年度のICT活用工事の動向 ICT活用工事の変遷 ICT施工の原則化 ICT施工に関する工種拡大 ・ICT活用工事の実施要領の改訂ポイント ・出来形管理要領の改訂ポイント ・ICT活用事例（地域特化と新技術など） 地域特化型のICT活用工事 省人化建機の取り組み チルトローテータの効果	 JCMA 施工技術総合研究所 藤島次長
<u>○道路改良工事におけるDX技術活用事例の紹介</u> ・DXとの出会い ・DXの使用→転機（令和2年度尾道・松江自動車道竹地谷中改良工事） 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3次元マシンガイダンス（バックホウ）技術 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 ・自分なりの活用方法（3Dモデルを活用し課題を顕在化） 竹地谷中改良工事で使用した事例 VasMap（工事用車両運行支援システム）G-cam（カンタン監視カメラ） ・若手技術者から一言	 （株）加藤組 土木課 中篠迫主任 今戸主任
<u>○橋梁点検業務におけるDX技術（点検支援技術）活用事例の紹介</u> ・中国地方の地域特性 ・中国地方整備局管理の橋梁の状況 ・点検支援技術の活用 ①点検ロボットカメラ ②小型ドローン ③水陸両用ロボット ④小型ドローン+AIカメラ ⑤マルチビーム測深機搭載ボート ⑥水中ドローン ⑦水中3Dスキャナ ⑧Jシステム ⑨床版上面の損傷箇所判定 ⑩RANS-u ⑪K-Trace ・中国地方整備局のインフラ（橋梁）点検診断に係る取組み	 中国地整 道路部 山本道路構造保全官

■聴講者アンケート（主なもの）

良かった点	改善してほしい点
・実際に体験した内容と感想を交えながら紹介があり、とても理解しやすかった ・今進めようとしているDX技術を多数知ることができたため、今後改革を進める際に意見として勧められると感じた ・現場でもICTに進んで取組んでいるため、新しい技術等を勉強できて良かった ・DXに関する最新の情報が収集でき大変タメになった	・同じ内容、データが多かったように感じた ・DX技術の紹介について、もう少し時間をとってほしかった ・工種によってどのようなDXがあるか気になった

中国地方整備局コーナー

4つの『担い手確保のアクションプラン』を公表しました

建設業界を取り巻く環境は、建設従事者の高齢化や入職者の減少に伴う担い手の確保が厳しい状況に直面しており、建設現場の生産性向上や働き方改革が喫緊の課題となっています。中国地方整備局では、4つの『担い手確保のアクションプラン』を公表し、各取組を進めています。

●中国地整「若手技術者表彰」の創設 ～次世代を担う若手技術者の活躍にフォーカス～

【概要】

- **令和8年度から表彰開始**（令和7年度に完成した工事、業務が対象）
- 対象者は以下のとおり、
 - ・ **工事** 工期開始日において **35歳以下の監理技術者等**
（特例監理技術者、主任技術者、現場代理人含）
 - ・ **業務** 工期開始日において **40歳以下の管理技術者等**
（主任技術者、現場代理人含）
- ※但し、過去に当該表彰を受賞した技術者、及び、過去又は同年度に優秀技術者表彰(局長・事務所長)、安全管理技術者表彰受賞者は対象外
- 局長表彰とし、**受賞した技術者は総合評価において加点(局長1/4)**



●中国地整「省人化チャレンジ」の導入 ～地域建設業の省人化技術へのチャレンジを支援～

【概要】

- 対象技術：実績がなくとも優れている省人化技術（NETIS-A、NETIS 未登録技術）
- 費用：**契約額の5%を上限に計上**
- 評価：**総合評価点（可(+)・否）**及び工事成績を**加点**



●中国地整「猛暑対策サポートパッケージ」の導入 ～多様な働き方を実現し、建設業の未来を創造～

< 週休2日の取組率 >



【概要】

- 施工時期や時間について柔軟な労働環境支援
 - (1-1) 猛暑期間を回避した工事
 - (1-2) 猛暑期間を休工可能とする工事発注
 - (1-3) 猛暑期間における現場施工回避の協議明記
 - (1-4) 猛暑時間の施工回避支援
- **中国地整独自** 地域の実情を反映した工期設定
- 猛暑対策経費

●「2026中国地整のDX推進計画」の策定 ～業務の効率化・現場の生産性向上を加速～

■目指すべき姿

- 「中国地整業務の生産性向上」：**仕事のやり方を5割変革し、新たな時間を創出**
- ：災害対応やTEC-FORCEの支援を変革
- 「建設現場の生産性向上」：**2029年度に生産性10%の向上**

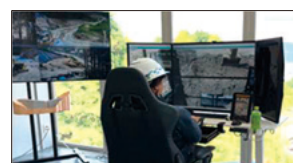
【概要】

■中国地整業務の効率化・時間の創出に向けた取り組み

- 業務の効率化に向けたAIの高度利用
- 被災情報の早期入手に向けたDX技術の活用

■建設現場のオートメーション化に向けた取り組み

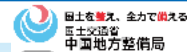
- オートメーション化に向けた遠隔操作機械の活用
- 設計段階からの施工合理化



『新たな省人化技術シーズ』を公募します

中国地方整備局では、NETIS に登録されていない埋もれた有用な「省人化技術シーズ」を掘り起こし、有用な省人化技術を普及させることで、建設現場の生産性向上を図るとともに、NETIS 市場のさらなる活性化を目指します。

「新たな省人化技術シーズ」の公募について [目的]



建設現場の生産性向上を目指し、NETIS未登録技術を対象とした**土木分野以外の異分野技術も含めた『省人化技術プラットフォーム』**を全国で初めて中国地方整備局で構築・運用

【NETISに登録されていない埋もれた有用な「省人化技術シーズ」を掘り起こし、有用な省人化技術を普及させることで、建設現場の生産性向上を図るとともに、NETIS市場のさらなる活性化を目指す】

■NETIS未登録の有用な「省人化技術シーズ」

土木分野以外の「IT・情報通信や製造業などの異分野で培われた技術」の開発が進み、建設現場への本格的な導入段階にある

- ・自動施工技術
- ・遠隔施工技術
- ・実施工において、人力を機械施工とする技術
- ・資料作成において、手作業をCAD、BIM、AI、VR等を活用して作業を効率化する技術 など

一方、

- ・異分野技術のためNETISへ登録されていないが公共工事で活用する可能性がある
 - ・公共工事で試せる現場がないため、技術検証に至っていない
- など、NETIS未登録技術の中にも有用な技術がある



掘り起こし
[省人化技術シーズを公募]

- ・具体的なニーズは指定せず建設現場の「省人化に資する」技術を対象とする

有用な省人化技術を普及

■『省人化技術プラットフォーム』

応募された技術概要情報を一覧表としてとりまとめ、公開



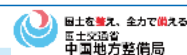
現場活用を推進（官-民、民-民）

NETIS登録技術
（実用化している公共工事等に関する技術）

NETIS市場のさらなる活性化！

建設現場の
生産性向上！

「新たな省人化技術シーズ」の公募について [取り組み内容]

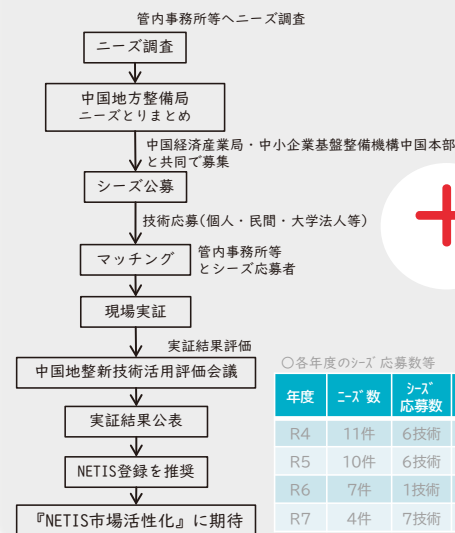


➤『省人化技術プラットフォーム』を構築・運用

- ・ NETIS未登録技術において土木工事現場や道路・河川管理にあたっての省人化効果が期待できる技術を公募し、「省人化技術シーズ・ショーケース」（技術一覧表）としてとりまとめ
- ・ 中国地方整備局HPで「省人化技術シーズ・ショーケース」を公開、官-民、民-民での現場活用を推進

➤ 現場実証を行った技術については「NETIS登録を推奨」

□従来の取り組み：ニーズ・シーズマッチング
[年1回のニーズ調査及びシーズ公募]



○各年度のシーズ 応募数等

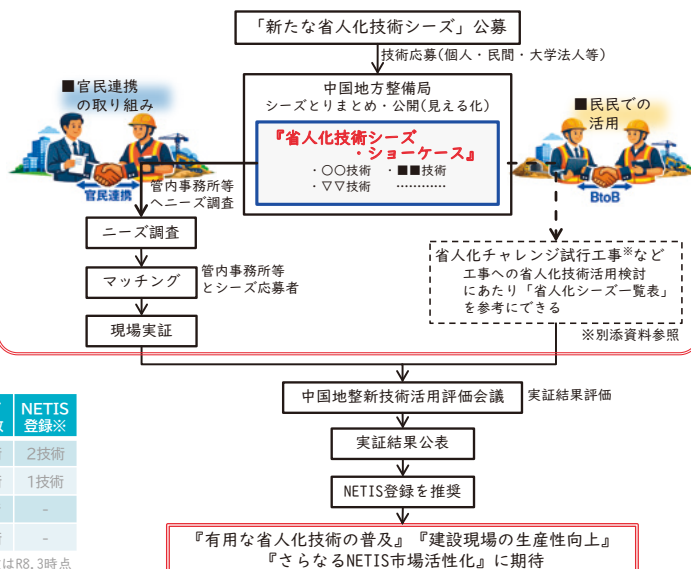
年度	ニーズ数	シーズ応募数	マッチング技術数	NETIS登録※
R4	11件	6技術	5技術	2技術
R5	10件	6技術	4技術	1技術
R6	7件	1技術	1技術	-
R7	4件	7技術	4技術	-

※NETIS登録数はR8、3時点

■新たな取り組み：

『省人化技術プラットフォーム』を構築・運用

[24H365日シーズ公募・受付
スピーディーに現場実証へ]



新入会員紹介

今、世界は大きく変わろうとしている。
先人たちが培ってきた想いを受け継ぎながら
既成概念の壁に挑み、新しい発想や技術に
磨きをかけ明日に向かって進んでいく。
さあ、今この瞬間から超えていこう。
それこそがイノベーションを巻き起こし、
私たちを明るい世界に導く原動力となる。
新しい時代への夜明けは近い。



挑め、進め、超えろ。



鉄建建設株式会社

本 社 東京都千代田区神田三崎町二丁目5番3号
広島支店 広島県広島市東区光町1-7-11 広島 CD ビル3階
電話番号：082-262-0141



www.tekken.co.jp

お知らせコーナー

今後の行事予定

日 時	区 分	行 事 名	内 容	備 考
令和8年 8月25日 ～27日	検定試験	令和8年度 建設機械施工管理技術第二次検 定（実技）試験	試験種別：1級・2級（第1種・2種・3種・4種） 試験会場：土師ダム上流 （土師ダムスポーツランドサッカー場横広場）	申請者

編集後記

年々短くなってきているように感じられる梅雨も明け、本格的な夏到来。暑い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。テニスやサッカーの試合中継などを楽しみ、睡眠不足になった方も少なくないのでは。

出雲大社では長さ13.6メートル、重さ4.7トンにも及ぶ大しめ縄の架け替えが行われました。クレーン作業の安全対策や作業員の皆さんへの熱中症対策が徹底され、厳しい暑さの中でも約1日をかけて慎重に作業が進められました。多くの方々の手によって丁寧に仕上げられた大しめ縄は新たな装いで多くの参拝者を迎えています。

私たちも、関係の皆様喜んでいただけるよう、一つひとつの仕事に真心を込め、暑さに負けず、安全第一で丁寧なものづくりに取り組んでいきたいものです。

厳しい暑さはまだしばらく続きそうです。皆様におかれましては、どうぞ体調には十分お気を付けいただき、健やかにお過ごしくださいますようお願い申し上げます。
(広報部会一同)

令和8年7月発行

編集・発行 (一社)日本建設機械施工協会中国支部機関誌編集委員会

〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22 築地ビル402

TEL 082-221-6841

FAX 082-221-6831

<https://jcmachugoku.jp/>

E-mail jcma-chugoku@mx41.tiki.ne.jp